



平成 18 年 5 月 9 日

各 位

会 社 名 株式会社ティー・ワイ・オー

代 表 者 名 代表取締役社長兼グループ最高経営責任者
吉田 博昭

(J A S D A Q ・ コード番号 : 4358)

問 い 合 せ 先 取締役兼グループ執行役員

飯田 浩一

電 話 番 号 03-5434-1586

平成 18 年 9 月期中間期 (連結 ・ 単独) 業績予想の修正について

平成 18 年 9 月期中間期 (平成 17 年 10 月 1 日 ~ 平成 18 年 3 月 31 日) の業績予想について、平成 17 年 11 月 22 日付「平成 17 年 9 月期決算短信 (連結) 」及び同日付当社「平成 17 年 9 月期個別財務諸表の概要」にて発表致しました業績予想を下記のとおり修正致します。

なお、本開示における決算数値等は監査法人による監査前数値であるため、監査後決算数値等とは必ずしも一致致しません。

記

1. 平成 18 年 9 月期中間期業績予想の修正等

(1) 平成 18 年 9 月期連結中間期 (平成 17 年 10 月 1 日 ~ 平成 18 年 3 月 31 日)

(単位 : 百万円)

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前回発表予想 (A)	10,120	744	287
今回修正予想 (B)	10,700	840	380
増減額 (B - A)	580	96	93
増減率 (%)	5	12	32
前期実績 (平成 17 年 3 月期)	9,176	694	266
対前年同期比 (%)	16	21	42

(2) 中間連結業績予想の修正について (平成 17 年 10 月 1 日 ~ 平成 18 年 3 月 31 日)

当社は、人材と企業が集まるしくみ・環境を「クリエイティブ・ビジネス都市」と呼び、都市の拡大 = グループの拡大という経営理念を継続して参りました。

広告映像事業セグメントは、「3月、9月」、エンタテインメント事業セグメントは、「第

2 四半期以降」と、各セグメントの業績貢献時期に違いのある当中間期において、広告映像事業セグメント（TV - CM制作事業、WEBコンテンツ制作事業）の業績増加が当初当中間期予想を上回り、連結売上高10,700百万円（対前年同期比16%増）、連結経常利益840百万円（対前年同期比21%増）、連結中間（当期）純利益380百万円（対前年同期比42%増）となる見込みです。また、連結中間（当期）純利益は、平成18年9月期中間業績予想の32%増益となる予想です。

(3) 平成18年9月期単独中間期（平成17年10月1日～平成18年3月31日）

（単位：百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	2,914	288	188
今回修正予想（B）	3,550	520	440
増減額（B - A）	636	232	252
増減率（%）	21	80	134
前期実績（平成17年3月期）	3,123	405	263
対前年同期比（%）	13	28	67

(4) 単独（中間）業績予想の修正について（平成17年10月1日～平成18年3月31日）

当社は、広告映像事業セグメントにおいてTV - CM制作事業を展開しており、プロダクション1から4、企画演出部を含めた五つの部門が積極的な営業を推進する「受注強化」とグループ規模での価格交渉によるコストコントロールばかりではなく、社内コストをできる限りにコントロールし、「利益率管理の強化」を実行して参りました。

その結果、当中間期は、売上高3,550百万円（対前年同期比13%増）、経常利益520百万円（対前年同期比28%増）、中間（当期）純利益440百万円（対前年同期比67%増）となる見込みです。また、上記見込みは、当初当中間期予想を各々大きく上回り、平成18年9月期中間予想に対し、売上高21%増、経常利益80%増、中間（当期）純利益134%増となる予想です。

(5) 中間連結業績予想修正理由

当中間連結会計期間におけるグループ業績は、事業戦略である独自の「マルチブランド戦略」（当社を事業持株会社とした多数の優秀なコンテンツ制作会社をグループ化する戦略）を着実に実行し順調に推移しております。当社のブランドの新規設立、ならびにM & Aによるグループ化は、一時的な業容拡大や話題性のみを狙うものではなく、「クリエイティブ・ビジネス都市」に参加した企業の継続的な拡大・成長と現実的な連結貢献を目指しております。前年同期時点に、グループ全社22社であった社数は、当中間期に全社27社へ増加し、1社1社が事業の拡大、収益の拡大をするばかりではなく、業績貢献時期に差異が生じても、全体として補完し合う「しくみ」に成長しています。

そのためエンタテインメント事業セグメントの業績が、プロジェクトの「予算・期間・数量」の増加、長期化により下期に移動していても、堅調を持続するコンテンツ・ソリューション事業セグメントの業績、広告主の広告宣伝費等の予算執行が例年3月、9月に集

中する傾向のある広告映像事業セグメントの業績増加に補完され、当中間連結業績は、上記に示す結果となりました。

平成17年12月26日に開示致しました「株式会社ジェンコ」のMBO（マネジメント・バイ・アウト）による連結中間（当期）純利益への影響も上記理由に加え、増益となる要因として利益を押し上げております。

なお、平成18年9月期連結通期業績予想は順調であり、グループ各社の業績を勘案し、修正が必要となった場合、適時開示致します。

⑥ 単独（中間）業績予想修正理由

当中間会計期間における当社の業績は、「受注強化」による受注増と「利益率管理の強化」によるコストコントロールの成果により上記に示す結果となりました。

平成17年12月26日に開示致しました「株式会社ジェンコ」のMBOによる子会社株式売却益の影響も上記理由に加え、増益となる要因として利益を押し上げております。

なお、平成18年9月期通期業績予想は、第3四半期では一時的に下がる傾向がありますが、第4四半期に受注が集中する予想のため業績を勘案し、修正が必要となった場合、適時開示致します。

以 上